

第1回 GLOBAL 2011 組織委員会が開催されました。

本年9月にパリで開催される GLOBAL 国際会議 (GLOBAL 2009) は、次回 (2011年) わが国での開催が予定されています。その会議を実施するため「第1回 GLOBAL 2011 組織委員会」が、7月8日に原子力機構・東京事務所で開催されました。

GLOBAL 2011 では、軽水炉で使用された燃料の管理に関する課題が明らかになりはじめ、次世代炉や高速炉建設が具体的となる2030年頃を見据えた原子力の姿を鑑みて次世代原子炉とそのサイクルを主テーマとして議論するものです。また21世紀後半以降には、分離変換技術などの実現を目指した革新的な原子力システムの導入も原子力先進国では計画されています。このような中、GLOBAL 2011 の主要テーマは、「2030年を見据えた原子力システムとその後の姿」として広く関係者間で議論されます。併せて、国内外の特に若手の研究者・技術者の相互の交流を図ることにも力を置いています。

組織委員会は近藤名誉委員長、田中委員長を中心に計37名の委員 (原子力学会・国 (経済産業省・文部科学省)・原子力機構・電中研・大学・電力会社、および原子力関連法人) の方々から構成されています。

委員会当日は、各委員の紹介、GLOBAL 会議の概要、開催までのスケジュール・予算などについての説明があり、活発な意見交換がなされました。また、田中委員長からは学会参加者の確保、学生の参加への支援、企業の展示ブースへの出展、現地関係者 (中部電力・名古屋大学・福井大学等) の協力についての要請がありました。



GLOBAL2011 組織委員の皆様